

埋めないという国との約束をとっているみたいです。だからやっぱりその最初のはなにになかなかうまい手を打ったなど私は思っております。

この中の資料から研究者、学者の中の方が放射能は必ず地上に漏れ出すと指摘をしている研究者がいる。このことはこの場ですることはできません。ただそういうふうな方が議論的にあることを市長は1回でいいですから、進める国の方針の説明と、そうでないとする最高レベルの人たちの話だけは聞いてほしい。これが私の言いたいところなんです。それを裁くということはございません。そういうふうなことで、一つのチェックしてほしいということを言いよるわけ。そういうふうなことでございます。

それと最後に、国防上の重要な課題として取り上げてはしましたが、攻撃を受けるということは誰も想定はしていません。しかし、この世は、悪いですが、その朝鮮半島前に、後ろには北朝鮮、右にロシア、左に中国と、やはり民主主義陣営と、共産と言いますか、専制主義国というふうな言い方をしていますが、やはりその隔てはあります。何が起きているのか分かりません。そういう中で、そういうことが起きた場合どうなるかということだけは、やはり学習してほしいと思います。それは専門家がおりますから。ここが私の今回の比田勝市長に聞いていただきたい、あるいは報告するべきであろうと、そして提言したいと。このようなことを以上に、ああせよ、こうせよということはありません。それをチェックしてくださいということをひとつ、今日、あなたにお願いいたしまして、本日の一般質問をこれで終わりたいと思います。どうもありがとうございました。

○議長（初村 久藏君） これで、大浦孝司君の質問は終わりました。

○議長（初村 久藏君） 暫時休憩します。再開を11時5分からといたします。

午前10時48分休憩

午前11時05分再開

○議長（初村 久藏君） 再開します。

引き続き、市政一般質問を行います。9番、脇本啓喜君。

○議員（9番 脇本 啓喜君） こんにちは。9番議員、会派市民協働の脇本啓喜です。早速、通告に従い、3項目一括質問いたします。その後、答弁によって再質問させていただきます。

大きな1番、令和4年4月に対馬近海で新たな活断層が発見されたことについて。

まず、パネル1を御覧ください。

新聞等でも報道されましたが、昨年3月、政府の地震調査研究推進本部地震調査委員会が公表した内容では、対馬西沖など、対馬近海にこれまで想定されていなかった活断層の存在が明らか

となり、マグニチュード7以上の地震が起こる可能性が示されています。マグニチュード7以上の江戸時代最大級の地震が1700年に対馬近海で発生したことの裏づけとも言えると思います。

次に、パネル2を御覧ください。

先月、峰町志多賀で実施された長崎県総合防災訓練の想定では、マグニチュード7以上7.0の地震、対馬市で震度6強の想定の下、津波警報が発表され、避難指示が発令されるなどの状況での訓練が行われましたが、これらのことについて市長の認識と考えについてお尋ねします。

大きな2番、基金活用事業の実績と成果について。ここではパネル3を御覧ください。

一般会計の基金は令和3年度末で25基金、残高は182億2,800万円となっています。このうち地域振興や活性化、まちづくりなどを目的とした基金として主に4基金、まちづくり基金、がんばれ国境の島対馬ふるさと応援基金、合併振興基金、過疎地域自立促進特別事業基金が約56億8,000万円あります。それぞれの基金に基金事業において過去3か年度における基金活用事業の実績、事業費や財源、事業目的と達成状況とその成果・効果について、明確数値化して御回答をお願いします。

また最近、大きな課題として人口減少問題や経済の低迷・疲弊が指摘され、課題解決の財源確保を憂う声があります。確かに潤沢な予算はありませんが、少なくとも基金の活用によりかなりの対策が打てると思います。これらの基金活用をさらに検討し、課題解決に向けて具体的に取組むつもりはないかお尋ねします。

大きな3番、上対馬病院建替えに関する市民への情報公開と市民協働まちづくりへの展開について。

対馬「北の玄関口」地区まちづくり協働プランが作成されたのは2006年、つまり17年前です。アップデートする必要があることは昨年6月定例市議会小職一般質問時に市長も見直しが必要とおっしゃられました。このことについては昨日の糸瀬議員の一般質問で、市長や上対馬振興部長から、対馬「北の玄関口」地区まちづくり協働プランを検証し、バージョンアップに着手するための策定委員会を設置する。上県町も含めた上対馬振興部管内を対象地域とするなどの答弁がありました。したがって、これに関する答弁は重複するかと思いますが、市長にお任せします。

現在、県病院企業団は、上対馬病院老朽化に伴う建替えを計画しています。単なる医療機関の建替えにとどまらず、まちづくりの展開に大きく影響を及ぼすものと思います。建設場所の選定段階から地元住民も参画できるよう、企業団に依頼して承認いただいていることは市長も御存じだと思います。この際、2番目の質問で取り上げた基金を取り崩し、北部対馬の新たな市民協働でのまちづくりに取り組むおつもりはないかについて答弁を求めます。

以上、後ほど再質問もさせていただきます。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） 脇本議員の質問にお答えいたします。

初めに、新たな活断層の存在の認識と見解についてでございますが、政府の地震調査委員会が昨年の3月に発表しました今後30年間の長期評価によりますと、対馬周辺に新たに5つの活断層の存在が明らかとなっております。今後30年以内マグニチュード7.0以上の地震が発生する確率について、対馬周辺区域では1%から3%となっております。巨大地震のリスクの代表となっております南海トラフ地震はマグニチュード8から9クラスの発生確率が70%から80%、首都直下地震はマグニチュード7程度の発生確率が70%程度との予測であり、これらと比較しても最も発生頻度が低い区域であることもまた発表のとおりであります。

しかしながら、巨大地震が全く来ないというわけではございません。このたびの対馬であった防災訓練では、想定として巨大地震が起きた際の対応として訓練するため、先月に行われました長崎県総合防災訓練による関係機関との連携や災害対策本部による迅速な対応が必要であったというふうに考えております。巨大地震という未曾有の危機に対して全庁体制での対応が求められることとなりますので、今回の防災訓練を機に今一度、防災部署へ体制確認のチェックを行うよう指示をしているところであります。

次に、2点目の基金活用事業の実績と成果でございますが、対馬市の基金の状況は令和4年度末で23の基金があり、その残高は181億2,334万6,000円となっております。令和5年度の予算編成では基金全体で30億1,770万5,000円を取り崩して予算を編成し、基金の活用を図っているところでございます。その中で議員御質問の、まちづくりを目的とした4つの基金の残高は合併振興基金19億500万2,000円、過疎地域自立促進特別事業基金19億5,582万8,000円、まちづくり基金10億円、がんばれ国境の島対馬ふるさと応援基金3億8,166万5,000円となっております。

基金の活用状況でございますが、まちづくり基金につきましては基金利子を運用する果実運用型の基金でありまして、利子額を市民がスポーツで県大会等に出場する際の補助金に充当しております。これは520万8,000円となっております。

過疎地域自立促進特別事業基金につきましては、過疎債ソフト分の先行きが不透明であることから、将来的な過疎ソフト分事業の財源を確保するためにルールで決められた過疎ソフト分の借入額と利子を積み立てております。合併振興基金につきましては令和元年度は対馬クリーンセンター基幹改良事業などのハード事業を主に全体で11件の1億3,650万円を充当しております。令和2年度はCATV設備改修事業のほか6件で1億1,200万円を充当しております。令和3年度は対馬市の観光拠点施設博物館建設事業のほか3件で3億5,100万円を充当して

おり、いずれも合併に伴う市民の連帯の強化や地域振興を図るための施設整備等に基金を充当しているところでございます。

がんばれ国境の島対馬ふるさと応援基金は、対馬の特性や地域資源を生かしたまちづくりの推進に資するソフト事業を主に令和元年度は12件、1億5,740万円、令和2年度は18件、1億6,484万5,000円、令和3年度は18件、1億8,600万円を充当し、国境の島対馬らしい施策を推進しているところでございます。

議員御質問の基金活用事業の実績事業目的と達成状況でございますが、基金活用事業の件数が多いために、詳細につきましては必要であれば一問一答で各担当部長がお答えいたしますので、この場での説明は省略させていただきます。

市の喫緊の課題であります人口減少問題や経済の低迷・疲弊につきましては、市の最上位計画であります第2次対馬市総合計画に基づき、人口減少対策に特化した第2期対馬市まち・ひと・しごと創生総合戦略に掲げた事業をこれまで以上に粘り強く推進することにより課題を解決してまいりたいと考えているところでございます。

また、市といたしましても人口減少問題は最重要課題と認識しており、課題解決に向けた新たな事業があれば市民や議会の声にも真摯に耳を傾け、補助事業の採択や交付税措置のある有利な起債及び基金の活用など、積極的に事業を推進してまいります。

次に、3点目の上対馬病院建替えに関する市民への情報公開と市民協働まちづくりへの展開についてでございますが、上対馬病院の建替えにつきましては、老朽化に伴う建替えと認識しておりまして、市有地から建設場所を選定するに当たり地域住民アンケートを実施し、意見をお伺いしたいと考えております。

また、建て替える病院の規模や病床数などの仕様についても今後、病院企業団との連携を取りながら、地域住民の皆様へ説明していくこととしております。

また対馬「北の玄関口」地区まちづくり協働プランにつきましては、昨日、糸瀬議員の質問にもお答えいたしましたけれども、議員御指摘のとおりプラン策定から17年が経過しておりますので、北部対馬地域の活性化を図るため令和6年度中にプランのバージョンアップに着手いたします。その際、地域住民皆様の意向が十分に反映された将来性・実効性のあるプランとするため住民参加型のワークショップを開催するなど、市民協働によるまちづくりに取り組んでまいります。

基金の活用についてでございますが、プランの策定などのソフト事業には、がんばれ国境の島対馬ふるさと応援基金、施設整備などのハード事業には合併振興基金などの活用が考えられますが、計画年度の市全体の事業総額や財政状況も加味しながら、基金を活用するかどうかの判断をいたしたいと考えております。

北の玄関口協働プランのバージョンアップは令和6年度に着手いたしますが、上対馬病院の建設用地の選定はそれに先行して進める必要があります。上対馬病院の建設用地の選定に当たっては、前述しましたとおり地域住民皆様の意見等を伺う機会を設け、新上対馬病院が誰もが安心・安全に暮らしていける心の拠り所となるような環境づくり、まちづくりに努めてまいりますこととしております。

以上であります。

○議長（初村 久藏君） 9番、脇本啓喜君。

○議員（9番 脇本 啓喜君） では、順番がちよっと違いますが、3番目の上対馬病院の建替えのほうから再質問させていただきます、確認を兼ねまして。

今、市長のほうから上対馬病院の建替えは市有地に考えていると、もちろんのことだと思えます。その際、住民アンケートを実施する、それから企業団と連携して説明会を実施する。その後、上対馬病院の建替えについては令和6年度中に北の玄関のバージョンアップをする前に先行して行いたい。本当にいい答弁をいただいたと思います。実施できるようにお互い汗をかいていきたいと思えます。よろしくをお願いします。しかも、この中身についてもワークショップ等も取り入れて、市民の参加も促していくという、市民協働をやっていくんだという市長の姿勢が伺えたと思えます。高く評価したいと思えます。

ところで、この対馬「北の玄関口」地区まちづくり協働プランを検証するに当たって、バージョンアップに着手するための策定委員会を設置するということでしたが、どのようなメンバーを想定されているのか。今、考えがあればお聞かせください。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） 今現在、まだ具体的にはその策定委員会メンバー等は選任はしておりません。今後、また上対馬振興部等を中心としてそこら辺の組立てを行っていききたいというふうにしております。

○議長（初村 久藏君） 9番、脇本啓喜君。

○議員（9番 脇本 啓喜君） 私は従来の各種団体の会長とかを中心とした委員会ではなく、その方ももちろん入ってもら必要はあると思うんですが、各種の課題ごとに小委員会等を設置して、その課題に関心がある一般市民が参加・参画しやすい場を設けてはどうかと思っておりますが、先ほどの市長のワークショップを行うということがその辺につながってくるかと思えます。ぜひ住民総出でこういうものに取りかかっていたらいいと思えます。

先ほど市長がおっしゃられたように、上対馬病院建設事業が市民協働で進められて、地域の方々にさらに愛される病院になるよう本当に一緒に汗をかいてやっていきたいと思えます。よろしくをお願いします。

それでは1番に戻って再質問をさせていただきます。

先ほどの市長の答弁から、新たな活断層が明らかになったことと、それから大規模地震の可能性があることの認識を共有することができたというふうに認識しております。よろしいですかね、そこは。さらに重要なことを、検証・認識について、市長に見解を求めたいと思います。

パネル4を御覧ください。

これは、資源エネルギー庁作成の科学的特性マップです。ここで確認したいことが2点あります。

まず1点目は、このマップがいつ作成されたかです。このマップにも記載されていますが、2017年7月28日作成と記載されています。

2点目は、地図上に記された色の要件についてです。御覧のように、対馬は緑一色で、壱岐はオレンジ色で塗りつぶされています。色ごとの違いは、資源エネルギー庁の科学的特性マップ公表サイトに詳しい説明があります。パネル5、科学的特性マップにおける地域特性の区分を御覧ください。

このように、オレンジ色は好ましくない特性があると推定される、いわゆる適地ではないとされ、火山や活断層が近くにあることなどが要件となっており、緑、このグリーンについては好ましい特性の地域、適地として火山や活断層が近くにならないことになっています。ところが、先ほどお示したように、対馬近海には新たないくつもの大きな活断層が明らかになっていますので、この要件・基準に照らせば対馬は好ましくない特性のオレンジ色の地域となります。ただ科学的特性マップの作成時点では活断層の存在は確認されていませんので、対馬が緑色で表記されていることは間違いではありませんが、活断層が確認されて1年余り経った今でも、NUMOの説明ではこの科学的特性マップを元に説明されています。このことにより、市民の多くが地層処分に適した地域であるとの印象を持ってしまっている可能性があるのではと大変危惧されます。

そこで、マップ作成の時期も含めてできるだけ正しい情報と事実関係を明らかにすることで、新たに明らかになった対馬近海の活断層の問題等について私なりに検証しお示したところです。このことについて市長の認識と見解を求めます。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） 冒頭、答弁いたしましたように、確かに対馬近海に5つの活断層が存在をしているといったことで、マグニチュード7クラスの地震が絶対に来ないということは言えないという思いを持っております。そういう中で、確かに时期的なずれもあろうかとは思いますが、このことについては、この科学的特性マップを作成されたNUMOのほうでもう少しもんでいただければというふうに思います。

○議長（初村 久藏君） 9番、脇本啓喜君。

○議員（9番 脇本 啓喜君） 私も作成した時点では間違っていない特性マップだということは認識しています。ただ誠実かどうかという、対馬まで説明に来ておりながらそのことにも触れないというのは、少し不誠実ではないかなというふうに感じております。

今、地震の頻度について市長もおっしゃられましたが、先ほど申し上げたように1700年に大きな地震があつています、ちょうど陶山訥庵先生の時代なんです。これを聞くと300年も前のことではないかというふうにおっしゃられる方もいらっしゃいますが、この高レベル放射性廃棄物については御存じのように10万年影響があるというふうに言われております。そのスパンからすると300年というのが何回来るのか、そのことも十分考慮に入れていただきたいというふうに思います。

それでは、2番目の基金活用について、再質問いたします。

ところで、議会初日本会議で、令和4年度対馬市診療所特別会計補正予算において大幅減額となった予算項目について、そうなった原因の検証を行ったかと私は指摘しました。担当部長からは、今のところそこまでは検証していないとの答弁がありました。では、現在、積み立てている基金の活用を全くしていないわけではないというのをよく市民も理解されたと思います。しかし、市民が実感できる効果が上がっているとまでは言えないというふうに思われます。その現状の検証は行っているのでしょうか。その点について答弁を求めます。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） この基金の活用につきましては、基金のみを充当するものだけでなく、他の効率のよい補助事業と組み合わせながらこの基金を活用していくということで進めております。

そういう中、私も先ほども説明いたしましたとおり、果実運用型のこのまちづくり基金あたりは直接、市民の皆様が島外へ行くため、スポーツ等で島外に行くための旅費とか、そういった活動資金として活用をしていただいておりますので、この辺りについては、もう少し市としてのアピールも必要ではないかなというふうには考えてはおります。

○議長（初村 久藏君） 9番、脇本啓喜君。

○議員（9番 脇本 啓喜君） 私がちょっと聞きたかったのが、どういう検証をしているかという中身についてだったんですが、例えば、がんばれ国境の島対馬ふるさと応援基金では、成婚フルサポート事業やUIターンの推進事業に取り組んでいらっしゃいます。この一般質問に伴い、各種事業の成果や効果についてもその実績数値の資料を御提供いただいています。そこには単年度実績は示されていますが、その後、現在でも対馬に住み続けていらっしゃるかどうかについては触れていません。確かにこの基金を活用した事業によって、単年度でどれだけ多くの方が結婚なさったり、IUターンなさったかも大事です。しかしすぐに島から出ていってしまった

としたら、本末転倒の事業と判断せざるを得ないでしょう。事業の成果はしっかりとした追跡調査を実施して判断できるものだし、その検証を生かして、より事業効果を高めることが重要だと思います。

ここでお聞きします。婚活事業やUIターン促進事業の追跡調査や事業の検証はどこまで実施して、それを毎年度、どのように改善に生かしてこられたのか、答弁を求めます。

○議長（初村 久藏君） しまづくり推進部長、伊賀敏治君。

○しまづくり推進部長（伊賀 敏治君） 移住定住後の検証というか、定着しているかということですよ。婚活イベント等により成婚し、その後も住み続けておられるかということだと思いますけれども、まず移住定住につきましては、令和3年度が141名、令和4年度が126名の移住者ということになっておりますけれども、はっきりきちんとした数字は今ここでは持ち合わせておりませんが、その方々が移住定住補助金を活用された方ということになるんですけども、その補助要件を満たさないうちに転出ということになれば、補助金返還ということになりますので、その事例でいけば1年に数件、一、二件程度しか生じておりませんので、定着率ということ言えばもう99%以上は定着されていると思いますので、その定着している方にさらに住み続けてられますかというような問合せであったりとか検証作業と言えるようなものは実際はしておりません。

そして、婚活につきましても、直近で言えば令和2年度からコロナによりイベントも開催しておりませんので、令和2年度、3年度は成婚の実績もございません。その平成31年以前は年に2組前後実績としてはあります。令和4年度は2、3、4年度とイベントはしておりませんが平成31年以前に開催したイベントのサポート事業は随時やっておりましたので、その結果が実ったと思っておりますけれども、令和4年度は3組成婚に至っております。その後、そのまま対馬に住み続けられていると思いますので、婚活につきましてもその後の検証、どうされていますかというようなところの検証ということではやっておりません。

以上です。

○議長（初村 久藏君） 9番、脇本啓喜君。

○議員（9番 脇本 啓喜君） 今、移住定住のほうを特に詳しく説明いただきました。補助金返還が起こっているところがもう数件しかないということで、高い定着率だなというふうに思っております。

昨年、いろいろ話題になったのが、初めて東京が社会減が起こったことです。そして各都道府県の県庁所在地のほとんどが社会増、転入が、特に若い人たちの世帯の転入が多かったと。五島が結構、取り上げられていましたね、定着率が高いと、移住してきてそのまま住み続けていらっしゃる方が多い。対馬は少し落ちていたと思います。競争することでもないかもしれませんが、

ますます定着率が上がるように努めていただきたいと思います。

そのためには、やはりプライベートも関係はしてくると思うんですが、どういう理由で島を離れるようになったのか、そういうこともお聞きになられて事業の改善に生かされたらどうかというふうに思います。ぜひそういう検証にも取り組んでいただきたいと思います。いかがですか。

○議長（初村 久藏君） しまづくり推進部長、伊賀敏治君。

○しまづくり推進部長（伊賀 敏治君） 先ほど定着率と言えばいい数字だと答弁させていただきました。

協本議員おっしゃるように、移住者の中には当然、地区と言いますか、地域になかなか馴染めないという声も耳にすることはあります。したがって、移住者同士での悩み相談ではないんですけども、1年に1回程度、移住者に集まっていただいて、そしていろいろな話を聞くというようなこともやらなければいけないということを部内でも検討しておりまして、すみません、これもちょっと記憶がはっきりしていないんですけども、令和4年度に確か1回は実施したんではないかなというふうに思っております。

以上です。

○議長（初村 久藏君） 9番、脇本啓喜君。

○議員（9番 脇本 啓喜君） では具体的なことについてはここで止めたいと思います。

基金を有効活用した政策の実現や課題解決の道筋がなかなか難しいことはよく理解しておりますが、これが一番肝要の問題だというふうに思っています。これが本当に取り組むべき一番の課題でしょうというふうに思っております。これは、市長や職員の責任だけでなく、この基金の活用については決算特別委員会とかもありますので、それをしっかりとチェックし、提言を担う議会人の一人として強く責任を感じています。市長は、市民と議会と市役所がスクラムを組んでとよくおっしゃられています、今こそそれが求められていると言いたいです。基金を活用した政策の実現を市長、三位一体になってやっていきましょう。市長、いかがですか。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） このことにつきましては、先ほども答弁いたしましたように、まず有利な交付金、補助事業、ここの活用を考えながら、そこに裏負担でどのような基金を持っていくかというようなことを財政当局のほうとも協議いたしております。

今後この基金の活用につきましては、そのような手法で行ってまいりたいというふうに思っております。

○議長（初村 久藏君） 9番、脇本啓喜君。

○議員（9番 脇本 啓喜君） 確かに先ほどから市長がおっしゃられるように、この基金単独事業としてやっていくのではなく、いわゆる合わせ技みたいな形でやっていくのが望ましいという

ところは私も見解は一致しております。

ただ今まで、特にハード事業について、補助金頼みというかそれを活用した建設等がよく見られてきたと思うんです。例えば厳原の国内ターミナルの建設、比田勝の国際ターミナルの建設、これもほぼ補助金でやったことで、対馬産材がほとんど使われていませんよね。やはり自主財源を、こういう基金を使うことで対馬産材を使ったりすることができると思うんです。そういうことをするために、その基金を活用するということが大事だと思うんです。

市長、よく最近、漏れバケツのことも言ってくださってますね。地域内で循環することが大事だと思うんです。単年度決算ではなくて、費用じゃなくて、投資として、対馬に残るようなお金の使い方、これを考えるときには補助金頼み、交付金頼みではなく、自主財源を使いながらそういうものも使っていく、そういうことで対馬にお金が残っていく。これが経済政策だと思います。今の認識について、市長の所見をお願いいたします。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） 確かに、特に議員おっしゃられました地域資源、そして地域産材を活用していくことは重要なことだというふうに私自身も認識しております。

ただ、今、議員おっしゃられたように、この国際ターミナルやいろいろな箱物等の中で、この対馬ヒノキ、杉、これをいかにして、どうかして使えんかということでもかなり職員とも頭を悩ましてはいるんですけども、一旦、本土のほうに集成材とか燻製とかそういったことで一旦出さなくちゃならない。そこで向こうで加工をして、また再度、対馬に運び込むというようなことで単価的にかなり高額になっております。そういう関係もありましてできるだけ、ただ対馬産材は使わないといけないということで、壁板等のそういった燻製とか加工等が必要のない部材については、できる限り対馬産材等を使うということで担当部局等とは話をしているところであります。

○議長（初村 久藏君） 9番、脇本啓喜君。

○議員（9番 脇本 啓喜君） いろんな計画の中にも、ガードレールについても木材のガードレールを使おうじゃないかとかそういうことも書いてあります。いろいろ今後も市長も案を練ってらっしゃるところだと思います。またぜひそのことについても御尽力いただければと思います。

それでは、次に進みます。

最近、国会で海業支援パッケージという施策について質問があっていました。報道でも耳にするようになってきました。パネル6、海業とはというパネルを御覧ください。

海業とは、海を中心に地域経済を元気にする、つまり水産・観光・飲食業など、海に関係する地域資源を生かす産業だと言われております。港でせっかく新鮮な魚が捕れるのに、捕れるだけで一般の人が食べるお店がなくてもったいない。海で漁業を見学したくても漁師さんの協力がなければできません。でも海に出るのが本業の漁師さんが片手間で人を集めるのは無理です。その地

を訪れる人を増やす、引き止める、観光に強い人の力が必要です。魚を食べる人が集まれば、その場所で飲食店を開いて生活できるようになります。そのようなことから最終的に浜に地域循環型の経済がうまく回るようになります。つまりは地域の中で協力し合って人が集まり、活気が出るように海業振興が考えられ始めています。

また、この海業支援パッケージでは、海業振興コンシェルジュという相談窓口が国の水産庁整備課に設けられ、関連する他の省庁とのマッチングや様々な支援策が紹介されています。市長、この件については御存じだったのでしょうか。はい。うなずいていらっしゃいますね。もともとそういう産業関係に従事されてきた市長のことですからよく御存じのことだと思います。

対馬市観光振興計画でも、観光DMOの設立について触れられています。観光DMOの設立に向けた手始めとして、これらの現存基金を活用して海業振興に取り組んでみてはいかがでしょうか、市長の所見を求めます。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） この、まず海業についてでございますけれども、議員おっしゃられるように、この海業の振興モデルにつきましては、今、水産庁が強く推進をしているところでございまして、そういう中で、令和5年3月に、この海業振興モデル地区といたしまして全国で12地区が選定をされておりますけれども、この12地区の中に、長崎県で唯一、上対馬漁協管内が選定をされております。そういう関係で、今、この議員のモデルと言いますか、（「パッケージ」と呼ぶ者あり）この中にもありますように、この今までの水産業だけではなくて、この観光業といろいろとブラッシュアップしながら、漁業、そして併せて観光業の推進も進めていこうというものでありますので、これについてはいろいろな補助等もあるようでございますので、このような補助も活用しながら、そしてまたその裏財源で基金等を充てることが可能であれば、そういった形で進めていきたいというふうに考えております。

以上です。

○議長（初村 久藏君） 9番、脇本啓喜君。

○議員（9番 脇本 啓喜君） 財政比率等も考えていろんな事業はやっていかなきゃいけないというふうに私も認識しています。今、裏打ちの財源のある事業にしていかなければいけないというところは、市長とももちろん認識が一致しているところです。

先ほどから言うように、この基金単独でというふうに私も言っているわけではありません。この基金で活用できることをもっと頭を、先ほどスクラムを組んでという言葉がありました。そのようにしていければなど。今までの基金の活用については、やはりどうしてもハード面の予算のほうが多いというのが資料から読み取れました。なかなかソフトにうまくこの基金を活用していくというのは頭を本当にひねらないと難しいというふうに考えております。ただ、それを市役

所だけでやるのではなく議員、議会、それから市民と一緒にこういうメニューがあるが何か手を挙げる人いないか、何かいい案はないでしょうかということで進めていければと思います。

少し時間は余りましたが、本日は質問は終わりたいと思います。

以上です。どうもありがとうございました。

○議長（初村 久藏君） これで、脇本啓喜君の質問は終わりました。

○議長（初村 久藏君） 昼食休憩とします。再開は1時5分からといたします。

午前11時54分休憩

午後1時05分再開

○議長（初村 久藏君） 再開します。

午前に引き続き、市政一般質問を行います。8番、船越洋一君。

○議員（8番 船越 洋一君） 新政会の船越洋一でございます。

一般質問に入る前に、一連の不祥事について、苦言を呈したいとこのように思います。

この件については、昨日7番議員からも指摘がありましたが、私のほうからも苦言を言わざるを得ないとこのように思います。

昨年の一連の不祥事に続き、本年もまた4件の不祥事が発覚し、行政の怠慢さが露呈されました。行政と市民との信頼関係は大きく揺らいでおります。これだけの不祥事が相次いでいるというのに、行政の綱紀粛正が不十分だと言わざるを得ません。職員一人一人が市民の公僕としての自覚を持ち、自分の置かれている立場をしっかりと認識し、その上で職務に当たっていただきたいと、このように思います。

議場にいる幹部職員には部下がそれぞれおると思いますが、綱紀粛正を、規律をしっかり引き締めて、不正をなくすよう徹底して肝に銘じていただきたいと、このように思います。

また、市には職員組合、服務規程は人事課があり、よく協議を重ねて、二度とこのようなことがないように、職員全体で取り組んでいただきたいと思います。（「そうだ」と呼ぶ者あり）

幹部職員の皆さん、まず顔を上げてください。市長は職員の不祥事のたびに謝り、また、昨年の不祥事の折には給料の50%カット、1年間。副市長においては給料の50%カット、半年間しており、謝罪もしております。本来、市長は謝るために市長になったわけではなく、この対馬を豊かにしたいという一念で日々精力的に活動されておりますが、市長の足を引っ張っているのは職員だと言わざるを得ません。

しかし、市長も一人では仕事はできないわけで、信頼できる職員がいて目的が達成できると思います。市長と職員が一丸となって、信頼回復に取り組んでいただきたいと思います。よろしく